

江戸のサイエンス ～あたたかな科学が生まれた頃～

江戸時代、海を渡ってやってきた“サイエンス”は、当時の日本における“最先端科学”でした。そしてそれらは、日常に存在する身近なものに目を向けた、素朴で人のぬくもりが感じられる科学へと展開し、人々の関心を集めました。江戸時代の科学者たちが“サイエンス”を学び研究した軌跡を、東北大学附属図書館が誇る江戸学の宝庫「狩野文庫」などの貴重な資料の中から厳選して皆様にお贈りいたします。

からくり、天文学、エレキテル、地図、博物学、蘭学、医学など、江戸の“あたたかな科学”をお楽しみください。

楽

しみの科学

からくりなどの楽しい仕掛けがいっぱい。体験コーナーともあわせてお楽しみください。

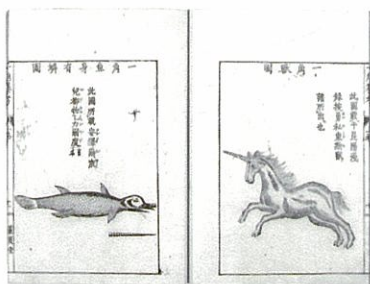


エレキテル大全新訳 / 橋本鄭訳

好

奇心の科学

思わず好奇心がわいてくる身の回りの不思議や現象。江戸の科学者はどんな風に見ていたのでしょうか。

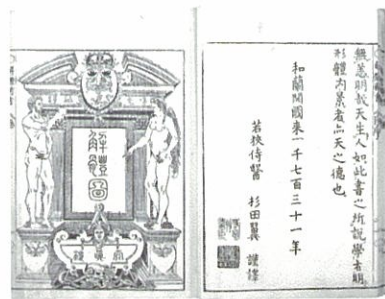


一角纂考 / 木村兼葭堂 編著

か

らだの科学

「解体新書」が出版された江戸時代における最先端の医学とは？



解体新書 / 杉田玄白、前野良沢訳

体験コーナー

からくり模型を 楽しもう！

エレキテル、茶運び人形、その他いろいろなからくり模型の個性ある楽しい動きをご覧ください。

江戸の折り紙と「ミウラ折り」を 体験しよう！

日本の折り紙文化が現代において展開したものとしては、東京大学宇宙科学研究所の三浦公亮教授によって考案された「ミウラ折り」があります。太陽系探査衛星「はるか」やスペースシャトルへ応用され、国際的にも注目を集めています。この「ミウラ折り」と日本古来の江戸の折り紙をご体験いただき、日本人の知恵と技術をお楽しみください。

資料の解説ビデオも上映します。

記念講演会

10月26日 月 13:30~15:30

演題

「科学の劇場 -科学と見世物の間-」

講師 吉田 忠氏 (東北大学名誉教授)

望遠鏡、寒暖計などの観測・測定器具からエレキテル、空気ポンプ等の事例を通して、江戸時代の好奇心と実験の萌芽を垣間見ていただきます。

会場 / 東北大学附属図書館本館2号館4階会議室

11月8日 日 13:30~15:30

演題

「仙台藩の天文史
-戸板保佑と幻の西洋暦-」

講師 黒須 潔氏 (仙台郷土研究会理事)

日本で初めて西洋暦を完成させた、仙台藩を代表する天文学者・戸板保佑の生涯とともに、当時の科学と思想の交錯について紹介していただきます。

会場 / 東北大学百周年記念会館(川内萩ホール) 2階会議室